

今後の展望

今回報告した種以外にも、ギヤマンクラゲ *Tima nigroannulata* やセキジュウジクラゲ *Santjordia pagesi*、ナンヨウミズクラゲ *Aurelia malayensis* など、最近になって報告されたクラゲは数多くいます。これらは形態観察だけではなく、遺伝子解析を用いた分類学的精査により新種記載されたクラゲたちです。しかしながら、日本近海にはまだまだ多くの未報告種が存在し、分類学的精査が必要とされています。滅多に捕れないクラゲ、限られた場所にしかいないクラゲ、水族館にしかいないクラゲ…クラゲとの出会いはまさに一期一会。貴重な標本や情報を提供して下さる皆さんには本当に感謝です。これからもクラゲが結んでくれた縁を大切にしながら、クラゲの輪を広げていきたいと考えています。

謝辞

クラゲの記載を行うにあたり、以下の方々には大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。三宅裕志氏（北里大学）、峯水亮氏、兼城涼香氏（峯水写真事務所）、秋山仁氏、野添裕一氏、山口日菜子氏、岡山桂氏、川久保晶博氏

（九十九島水族館）、石井輪太郎氏、水谷精一氏（アクアマリンふくしま）、山本岳氏（新江ノ島水族館）、齋藤伸輔氏（大洗水族館）、濱津芳弥氏、内田博陽氏（なぎさ水族館）、谷本都氏（美ら海水族館）、佐藤智佳氏、池田周平氏、菅野響樹氏、奥泉和也氏（加茂水族館）、Ilka Straehler-Pohl氏、星野美奈氏、柴田晴佳氏。

参考文献

- 峯水亮, 久保田信, 平野弥生, ドーグル・リンズィー (2015) 日本クラゲ大図鑑. 平凡社. 360 pp.
並河洋, 楚山勇 (2000) クラゲガイドブック. CCC メディアハウス. 122 pp.
三宅裕志, Dhugal Lindsay (2013) 最新クラゲ図鑑 110種のクラゲの不思議な生態. 誠文堂新光社. 128 pp.
千原光雄, 村野正昭 (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説. 東海大学出版会. 1612 pp.
Bouillon, J., Gravili, C., Gili, J. M. & Boero, F. (2006) An introduction to Hydrozoa. Mémoires du Muséum National d'Histoire Naturelle, 194: 1-591.
水口博也, 戸篠祥 (2022) 世界で一番美しいクラゲ図鑑 海中を優美に浮遊する神秘的な生態. 誠文堂新光社. 160 pp.

図書紹介—今号の記事に関連する書籍—

たくましくて美しい ウニと共生生物図鑑

山守 瑠奈 (著)
A5判変型, 2021.10
創元社
定価: 1,700円+税

幼い頃から海の生物に親しみ、小学生の自由研究以来ずっと海洋生物の研究を続けて全国各地の海でフィールドワークを積み重ねてきた著者が、ウニと共生生物の世界を分かりやすく案内してくれる。読んでいだけで海の生き物の生態を垣間見ているような、楽しくなる一冊である。
[関連記事: p. 5~7]



世界で一番美しいクラゲ図鑑 海中を優美に浮遊する神秘的な生態

水口 博也 (編著)
戸篠 祥 (編著)
AB判, 2022.04
誠文堂新光社
定価: 2,700円+税

本書は、写真家としても世界的に知られる編者の水口氏とクラゲの研究者、写真家として知られる戸篠氏による図鑑。学術的にも意味のある写真を集めて写真集として圧倒的に見応えがあると同時に、研究者たちからの寄稿もあわせ、読んでも楽しい図鑑となっている。
[関連記事: p. 8~12]



編集後記

今号の表紙は、ネコジタウミウシ科ツガルウミウシ属のクチヒゲツガルウミウシ (写真個体: 12 mm) です。ご存じの方も多いパンダツノウミウシと同じグループのウミウシで、名前に「クチヒゲ」とあるように、前端にある口触手の間が黒くなるのが特徴です。よくみると愛嬌のある人の顔のように見えてくるような気がします。なんだか親近感がわくウミウシですね。

いよいよ2024年最後の号を迎えました。あっという間に1年が過ぎていきます。当財団は事務所移転という大きな変化があった年でもありました。2024年も皆さまにご協力をいただき、無事にうみうし通信を発行することができました。日々、研究や調査が進み、水棲無脊椎動物に関する情報が増えていくので、ご紹介したい内容は尽きません。2025年もさまざまな情報をお届けしたいと思っております。